

平成30年度 中部バリアフリー連絡会議

■日時： 平成31年3月15日（金） 14:30～17:00

■場所： 名古屋合同庁舎第1号館11階 共用大会議室

○オブザーバー

※所用により欠席された方

- 委員： 磯部 友彦（中部大学 工学部都市建設工学科 教授） <委員長>
板井 正斉（皇學館大学 教育開発センター 准教授）
○村井 裕樹（日本福祉大学 健康科学部福祉工学科 准教授）
山田 昭義（社会福祉法人 A J U自立の家 顧問）
○水谷 真（社会福祉法人 A J U自立の家 所長）
※仁木 雅子（社会福祉法人 名古屋手をつなぐ育成会 理事長）
中野 真哉（公益財団法人 愛知県老人クラブ連合会 主査）
※岩間 康治（社会福祉法人 名古屋ライトハウス 視覚障害者支援室長）
中井 恵美（特定非営利活動法人 子育て支援のNPOまめっこ 理事長）
○高柳 進一（特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族会連合会 会長）
小倉 健太郎（公益社団法人 静岡県聴覚障害者協会 事務局長）
※小川 剛矢（一般財団法人 岐阜県身体障害者福祉協会 課長）
野口 あゆみ（特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター 事務局長）
○伊藤 順子（特定非営利活動法人UDほっとねっと 理事長）
山田 幸代（福井市ボランティア連絡協議会 事務局長）
○冨田 俊一（福井市身体障害者福祉連合会 会長）

【事業者・関係協会】 東海旅客鉄道(株) / ※中部鉄道協会 / 中部バス協会 /
中部タクシー協会連合会 / 東海北陸旅客船協会

【行政機関】 愛知県 / 静岡県 / 岐阜県 / 三重県 / 福井県 / 名古屋市 / 静岡市 / 浜松市

【事務局】 中部運輸局 / 中部地方整備局

- 議事：(1)【報告】国土交通省のバリアフリー施策の取組みについて
(2)【報告】自治体におけるバリアフリー推進の取組みについて
(3)【意見交換】障害者参画によるバリアフリー推進について
意見交換の概要は次のページに掲載しています。



・心のバリアフリーは、人間同士にもバリアがありますが、それを越えて心を届けること。精神障害者の場合は、コミュニケーションが苦手な人が多いため、役所に並んでいるとき、横から割り込まれても、自分では何も言えない。やはり偏見で軽く見られる。また、交通料金の助成制度は、共生社会の自立と社会参加が可能にするものだと思います。まだ助成は十分ではないが、精神の場合は、障害と認められたのが最近のことです。病院に行く場合も割引制度があれば通いやすくなるといった相談もあります。

【特定非営利活動法人 愛知県精神障害者家族会連合会】

・心のバリアフリーをステップアップしてやっていただければと思います。まだ理解が乏しいのは、認知症、知的、発達、精神障害、聴覚障害の方もぱっと見てわかりにくい。そのような方のことをよく理解していれば、例えば、知的障害の方のご家族がいらっしゃって、何か叫んでいる姿を見たとき、周りの人たちがどう見るか、何か手助けすること、分かっていたらできますが、それがわからない人であれば、何だろうという冷たい目で見てしまい、その家族が社会に出にくくなってしまいます。周辺の人たちがなかなか理解できなくても、交通事業者さんがそういう人たちがいることをよくわかっていたら、何か手伝えることありませんかと声掛けできる。そういう目で見ないというような状況を1人でも多く理解してもらえるように、心のバリアフリーをもう少し幅広く、見えない障害の人たちへの理解を増やしていくことが必要だと思います。

【特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター】

・聴覚障害の方は普通に立っていると、耳が聞こえないのか分からないので、何とかしなければならぬなと思っております。岐阜県で開催した心のバリアフリー教室では、聴覚障害の方からの説明で、聴覚障害も伝音性や混合性などいろんな難聴があり、それぞれ違いも初めて聞いた次第です。今後は、愛知県精神障害者家族会の高柳会長もいらっしゃいますので、精神障害も含めて、何かしら運輸局の行うバリアフリー教室に、最初は経験談というお話になろうかと思いますが、積極的に取り組んでいきたいと思っております。

【中部運輸局交通政策部消費者行政・情報課】

・障害者が受けるバリアは、4つあります。1つ目は移動のバリア、2つ目は制度のバリア、3つ目は情報・文化のバリア、4つ目は心のバリアです。移動と制度と情報のバリアの多くは、障害者自身では解決することができません。心の問題は、他の障害の理解や手伝い、介護など、障害者自身にもできる面があると思います。移動と制度と情報・文化のバリアは、障害者が自分で何度かやってみてもできないことが多く、最終的には合理的配慮に頼らざるを得ません。この3つのバリアと心のバリアの違いを理解していただけたらと思っています。

【公益社団法人 静岡県聴覚障害者協会】

・公共交通機関のバリアフリー化整備状況で、鉄道駅等の整備項目に、聴覚障害者はどの部分に入るのでしょいか。今ある項目だと、肢体不自由の方、視覚障害者の方のみに限ら

れてるような感じがして、項目を何か考えていただきたいと思います。

【福井市ボランティア連絡協議会】

・公共交通機関のバリアフリー化整備状況で聴覚障害の項目は、今のところ私の知る限りではないと思います。今後は、聴覚障害だけでなく幅広い意味でバリアフリーというのは2020年のオリパラまでの目標なので、国として継続して進めていかなければならない問題だと思っています。また、その具体化については、ご意見を東京の方に報告させていただきます。

【中部運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課】

・思いやり駐車場のパーキングパーミット制度は、各県でカードを使って乗り入れをしていただいているところがたくさんあります。私達は伊勢志摩で活動していますが、愛知県から観光に来られる方が非常に多く、そういった人たちがカードを持っていると、例えば、通行止めのところも入れますよとっております。一方で、思いやり駐車場がないという相談も受けますので、愛知県にも少しでも広まっていけばいいなと思いました。

【特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリースターセンター】

・静岡県では、ユニバーサルデザインの出前講座を小学校4年生に行っていることは、義務的にやっているのではなく、学校からの要請があってやっているのか、また効果を知りたい。

【福井市身体障害者福祉連合会】

・静岡県のユニバーサルデザインの出前講座は、まず私どもにご希望があって、学校にご説明に伺い、そこから発展的に学校の授業に取り入れていただいております。静岡県では、平成11年からユニバーサルデザインの取組みをしており、20年近く経っています。県民への調査では、ユニバーサルデザインという言葉について、20代30代の方が知っている割合が高い。それは、一回授業を受けて、なんとなく言葉が頭に残っていることも大きい。例えば、中学校から希望があっておこなう講座の中で質問すると、小学校のとき習ったという声があります。

【静岡県 暮らし・環境部県民生活局県民生活課】

・心のバリアフリーは、皆さんが障害をもつ人、あるいは困った人に出会ったときに、どういう気持ちを持つのが一番大事なことです。健常者が、かわいそうな障害者に重荷を持つことではない。新しい鉄道車両についても、きちっとフラットにしていれば、我々は介助がなくてもよい。そうすれば、駅員が来なくても、自分の好きな道を好きなように選んでいける。これが僕は大事だと思います。それが、本当のユニバーサルデザインになる。心のバリアフリーは、1つ土台のようなものは何だろうということ、ここが一番大事である。僕は、人の尊厳をきちんと認めること、人権という感覚が無い心のバリアフリーは、我々にとって煩わしいだけということだけを理解して欲しい。それは人権で言うと、今皆さんがやっておられることは、本当に正しいことなのか、もう一度見直して頂きたい。

【社会福祉法人 AJU自立の家】

・障害のある方にご参画いただいたバリアフリーの取組みとしては、金山駅にホームドアの試作機を設置していた期間中に、このバリアフリー連絡会議の主催で、見学会を実施させていただきました。また、心のバリアフリー教室では、名古屋駅イベント広場のタワーズガーデンで、白杖の疑似体験の場所をご提供させていただきました。

【東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部管理部総務課】

・高校生地域創造サミットでは、高校生たちにバリアフリー観光のことを知ってもらおうということで、車いす等の疑似体験をしながら駅周辺を散策しました。また、近鉄さんには、電車のバリアフリーの状況、ホームについて駅員さんからご説明いただき大変助かりました。

・バリアフリー改修アドバイスの取組みでは、観光事業所、宿泊施設のバリアフリー改修をするときに、私どもは障害者の方と同行して、会社に改修のアドバイスをしております。

・伊勢おもてなしヘルパーでは、伊勢神宮参拝される方たちのサポートを受けつけており、参拝のお手伝いをさせていただいております。

・三重県版バリアフリー観光推進事業では、訪日外国人の方、障害者、高齢者等に対応したバリアフリーの宿泊施設等の調査をしております。また、県内の観光ボランティアガイドに対するパーソナルバリアフリー基準による実践研修しております。これは、観光ボランティアガイドの方に、障害者の方や外国人も含めていらっしゃる時に、どのような対応をするのか、ガイドさんで取り決めをお願いしております。ガイドに従事すると、障害者等の方のサポートを怠ってしまうことがよく聞かれます。どこまでするのか、もしできないのであれば、別の機関でサポートすることもできる。当センターでは、障害者等の方がどういう動きをするのかしっかり理解して、お客さんに満足するガイドをしていただけるように研修を行っております。当センターでは、いろんな行政、機関とコラボしながら活動しております。

【特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター】

・特に心のバリアフリーでは、いろんな立場の方々が協力しないといけない。そのとき感じるのは、どうしても国の行政がまず縦割りであること。今日は、各自治体さんが部局をわたって検討されているという話がある意味すばらしい。また、三重県では、NPO が、いろんな役所とお付き合いしていることが見えてきた。それぞれの立場でやりやすい方法で、どうしても縦割りになってしまうところを、いかに横に繋いでいくのか、その中にいろんな障害当事者もいて、観光だと旅館等のサービス産業が幅広くありますので、よく連携をとってうまくやらなければいけない。こういう機会を活用して、情報交換をうまくしていけばいいなと思っております。

【中部大学 機部委員長】

・2026年にアジア大会がありますが、今後も訪日外国人の方が多く来たとき、情報はどこにあるのかが一番大事なことです。いろんなところに行き観光案内所に入るけれども、例えば、ノンステップバスありますかと聞くとわかりませんと答えられるのが圧倒的に多

いです。情報をきちんと整理していただく。それこそ職員の心のバリアフリーを、もう少しきちんとしておく。遊びに行ったら観光案内所で解決する、行政も困ったらここへ行けば解決するっていう仕掛けを作っておかないと、それぞれがしがらみで動いていると、せっかく制度が作られても、魂は入ってないということになりかねないので、ぜひその辺を受けとめてほしい。

【社会福祉法人 AJU自立の家】

・名駅のバリアフリー教室にご協力いただいたJR東海さんの影響力はかなり大きかったので、今後も十分に発揮していただいて、可能な範囲とはいわず積極的にバリアフリー教室にもご協力していただきたい。

【中部運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課】

・各自治体や各団体さんができているバリアフリーのご紹介は、非常に大事で有意義なことですが、ここで一度に集まって意見交換をしなければいけないのは、できてないことは何なのかということで、そのバランスだと思います。お互いに困っているところをどうしたらいいか、この多職種連携の会議体で、何かアイデアが出てこないかということも、今後やっていくことが求められてくると思います。また、心のバリアフリーは、国土交通省の専売特許では全然ありません。厚労省も同様に進めている部分があります。そうすると、心のバリアフリーの政策課題は、非常にマージナルな周辺的な政策課題であることを、我々は認識をして、周辺的であることの優位性をいかにみいだせるのかっていうところに焦点を絞っていかなければいけない。議論のやり方も含めて、工夫をしていくことも考えては良いのではないかなと思います。例えば、課題に対してそれぞれの部局の知恵を持ってしたら、どんなことが考えられるのか、そこに関係機関が入ったらどんなふうに解決できるのかということ、事例ベースで考えていくやり方です。これは、必ずしも答えが導き出せるものではないかもしれませんが、心のバリアフリーという中部運輸局が管轄する中で、公共交通機関に関わりながら、ここでこそ出来るブレイクスルーもあるのではないかなと思っています。

【皇學館大学 板井委員】

・私は、教育者的なところから発言させていただきます。名駅バリアフリー教室に学生を連れて参加しました。今の学生は行動力がちょっと弱いところがあるのですが、その中でも手を挙げてくれて、やっぱり関心がある学生はいるのだなと嬉しく思ったところです。実際に疑似体験や障害のある方と話をしていく中で、すごくだんだんと顔が明るくなってくる。最後に、学生から私に言ってくれたのは、また疑似体験や勉強会があればぜひ紹介してくださいと言ってくれました。そこで思ったのは、小中高大の学生がたくさんいますので、そういう学生たちができるべく関わられるような、そんな企画をたくさん作っていただいて、ただ参加するだけではなく、次も参加したいという気持ちになれるもの。学生達は楽しいということが大事なので、そのように企画提案していただけたらとても嬉しく思います。

【日本福祉大学 村井オブザーバー】